

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 7 月 29 日

評価対象事業		評価者	指令情報課長 伊藤 正	
消防-08	指令活動事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	指令情報課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民等を各種災害から保護するため。
効果	災害に強い、安心して暮らせるまちづくりを図る。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

・市民等からの通報を受信し、災害の種別や規模に応じて直近となる消防隊・救急隊等を選定し出動指令を行った。
 ・消防・救急活動を円滑に遂行するための支援業務及び関係機関との連携伝達業務を行った。
 ・大規模災害時に緊急消防援助隊等で使用する共通波は県及び県内市町村と共同で維持管理を行うとともに活動波の維持管理を行い、7月に静岡県熱海市への緊急消防援助隊出動時に支障なく運用した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度	
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)		
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)		
01	指令センター運用事務	消耗品費、指令専用回線等電信料、通訳業務委託費、システム利用料、研修旅費、共通波設備の無線局免許申請手数料、備品購入費	円滑な指揮命令による災害活動等の達成(%)	100 / 100	100	100	100.00%	
				14788 / 15323	18,797			
02	指令センター点検事務	高機能消防指令センター保守点検委託料	—	71 / 100	100	100	71.00%	
				22211 / 31232	32,299			
03	指令センター維持修繕事務	備品修繕料	—	24 / 100	100	100	24.00%	
				3322 / 13715	40,486			
04	災害緊急情報等発信事務	災害緊急情報鎌倉エフエム負担金	—	100 / 100	100	100	100.00%	
				1992 / 1992	1,992			
05	共通波、活動波管理運用事務	活動波・共通波保守委託料、管理等負担金、高機能指令センター更	—	99 / 100	100	100	99.00%	
				17806 / 17811	26,181			
06				/				
07				/				
08				/				
09				/				
10				/				
		財源内訳	国県支出金	/				
			地方債	/				
			その他特定財源	/				
			一般財源	60119 / 80073	119,755			
			事業費の合計(千円)		60,119 / 80,073	119,755		
		人件費(千円)			107,604	108,346		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	13.0	14.0	13.0			
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	指令センター運用事務	高機能指令センターの運営経費で、専用回線等の電信料、消耗品、システム利用料金などの経費である。県内21ヶ所ある基地局のうち、鎌倉市に設置された基地局の無線局免許更新手数料に支出する。指標の設定なし。	高機能消防指令センターは、市民等のSOSを最初に受信し、その後の活動を決定し、正確な情報を伝達し、出動車両間との連携を図り、様々な災害に対し迅速・的確な災害指令業務を実施することが市民等の安寧秩序につながります。よって、高機能消防指令センターの安定稼働を維持管理すると共に、機能を十分に活用できるように課員のレベルアップを図り、システム全般を的確に取扱える職員を多数養成し市民等へ更なる安全安心の提供に努める。県内を広域的に使用及び活動するために整備された基地局であるため必要な措置である。	特になし。
02	指令センター点検事務	消防・救急活動をサポートするため保守に要する経費。	鎌倉市が使用する基地局等や高機能消防指令センターの365日24時間対応の保守を継続する。	特になし。
03	指令センター維持修繕事務	指令機器が最良かつ安定した稼働を維持するために支出する。	サーバーやネットワーク機器等の有寿命機器を中心に更新を行う。	特になし。
04	災害緊急情報等発信事務	災害発生や人命に危険がある場合などの災害情報を「鎌倉エフエム」の放送設備を利用して緊急の割り込み放送を行うため支出する。	市民に的確な情報を提供することにより、災害の発生及び被害の軽減を図ることに寄与する。	特になし。
05	共通波、活動波管理運用事務	指令システム及び活動波等の安定稼働の保守にかかる経費及び県が中心となる基地局整備の保守にかかる経費。高機能指令センター更新に伴う基本設計等業務委託、固定局再免許申請委託	基地局等や高機能消防指令センターの365日24時間対応の保守を継続する。高機能消防指令センターの安定した稼働のため、有寿命の部品や機器システムの更新を行うため、関係課と協議を重ねるとともに、近隣市の状況を観察・調査しながら慎重に実施する。	設計業務委託を行うための情報収集及び関係課との協議が重要である。
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいいが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-9 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、実施事業に協働はなじまない 協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止

高機能消防指令センター及び消防救急無線の主たる用途は、各種災害通信を受信し、災害の種別や規模に応じ災害現場から直近となる消防隊・救急隊等を選定し、出動指令を行うことである。そのためには、正確な情報を伝達し、出動車両間との連携を図り、様々な災害に対し迅速・適確な災害指令業務を実施することが根源となるため、高機能消防指令センターの安定稼働を維持管理すると共に、機能を十分に活用できるよう課員のレベルアップを図り、システム全般を適確に取扱える職員を多数養成し更なる安全安心を市民に提供できるよう努める。また、安定稼働を維持するために、計画的な更新計画を立案するとともに、消防本部移転計画に伴う高機能指令センター構築計画も併せて実施する。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の構築による、出動指令体制の迅速化、システムの維持管理を実施する。	目標値	100	100	100			
	実績値	100	100				
	達成率	100.0%	100.0%				

指標(単位)							単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--